

日本の空を紡ぎ、あなたのまちと繋がっていきます。



## 『大阪国際空港と共生する都市宣言』

有馬山 いなの笹原 風吹けば

いでそよ人を 忘れやはする

【後拾遺和歌集 大武三位】

さわやかに歌われ、江戸時代には酒づくりで栄え、多くの

文人墨客が訪れた、古い歴史と文化を有する。わがまちいたみ

昭和39年6月1日、大阪国際空港に初めてジェット機が

就航し、増え続ける騒音は市民の静穏な生活を脅かした。

静かな空を取り戻すための運動は大きく広がり、昭和48年

10月1日、わたしたちは「大阪国際空港撤去都市」を宣言した。

ときには寝食を忘れた、30年をも超える人々の真摯な努力

と騒音軽減への取組みが、平成2年の「存続協定」を経て、今日、

ようやく空港との共存・共生への道をひらくこととしている。

都市の個性・魅力を高め発揮する時代にあって、地域活力の

向上をはかるため、わが国の基幹空港である本空港を、市街地

空港の模範として、一層効果的に活用することが求められている。

今こそ、人とまちが輝くために、引き続き安全・安心な

生活環境の確保に万全を期すとともに、人・モノ・情報の

交流拠点である空港を、地域の振興とまちの発展に重要な

役割を果たす地域資源として最大限にいかし、夢と魅力の

あるまちづくりを進めなければならない。

ここに、伊丹市を大阪国際空港と共生する都市とする

ことを宣言する。

平成19年4月1日 伊丹市